

日本景観生態学会 2023 年淡路大会 公開シンポジウム

日時:2023 年 5 月 27 日(土) 1430-1700

会場:兵庫県立淡路景観園芸学校/兵庫県立大学淡路緑景観キャンパス(緑環境景観マネジメント研究科)多目的ホール

定員:約 150 人(会場)+オンライン

「OECM(自然共生サイト)と生物多様性地域戦略のつくり方・つかい方

～自然を活かして地域を元気に～

淡路島のような、農業が基幹産業となっている地域では、かつての人の営みによって形成された里山の自然環境が、いまま各所に点在し、持続している。しかし、その重要性は地域の人にはあまり意識はされていない。このような中で、市民による自主的な保全活動が行われている場所がある。今までは、政策的に、そうした場所を保全区域として指定して支援することが難しかった。しかし、新たな生物多様性条約や国家戦略では、国土の 30%を保護区として指定していくという目標の達成において、OECM(自然共生サイト)によって民有地を含む様々な地域を保護区として指定していく方針が示された。OECM によって市民による保全活動を政策に位置づけることは、地域の自然を活かした地域循環共生圏の実現にも寄与する。こうしたことから、それぞれの自治体で策定・改定される生物多様性戦略は、これを後押しするものとならなければならない。本シンポジウムでは、OECMと生物多様性地域戦略をどのように地域に落とし込んでいくのか、そして、その制度をどのように活用していくことが地域の活力を向上させるのかについて、具体的な事例をもとに検討する。

進行(発表者紹介):

1430-1435 趣旨説明

藤原道郎(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科教授/淡路景観園芸学校)

1435-1605 話題提供

1435-1505 新しい生物多様性国家戦略と 2030 年目標達成のツールとしての OECM

小林 誠(環境省 自然環境局 自然環境計画課 課長補佐)

1505-1525 淡路島における地域住民主体のシロチドリの保全

立田彩菜(兵庫県立大学客員研究員,淡路島ちどり隊代表)

1525-1545 農地の生態系をとりこんだ都市緑地への期待

澤田佳宏(兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科准教授/淡路景観園芸学校)

1545-1605 ホットスポットをコアとした阿南市生物多様性地域戦略と地域への波及

坂本真理子(あなん生物多様性研究所 研究員)

休憩(10分)

1615-1700 パネルディスカッション

・コメンテーター:鎌田磨人(徳島大学大学院社会産業理工学研究部 教授/日本景観生態学会会長)

・パネリスト:小林 誠,立田彩菜,澤田佳宏,坂本真理子

・コーディネーター:柴田昌三(兵庫県立淡路景観園芸学校学長/京都大学大学院教授)